

教科・領域等 [小学校・体育]



7 主体的な学びを視点とした授業改善の実践
 できることに向かって「楽しく」チャレンジ

こんな実践

子供にとって「楽しい」体育とは、どういうことなのでしょう。できることに向かって、主体的に課題解決に取り組む姿を目指した実践です。

実践学校 D 小学校

実践学年 2 学年

実践時期 6 月上旬

単元名 「運動遊び」

学習指導要領との関連：A 体づくりの運動 イ 多様な動きをつくる運動遊び

(イ) 体を移動する運動遊び

- 本時は、「いろいろな用具を選んで、音楽（かっこう〔3拍子〕）に合わせてリズムカルに跳ぶことを楽しもう」をねらいとした授業です。
- まずは、跳び方の説明を教師が行います。【伝える】子供たちは、先生の跳び方にくぎ付け。ジーっと見つめています。【見せる】その後、先生をモデルとして見ながら、全員で跳んでみます。【やってみる】このように、どのように動けばよいか「分かる」こと、実際に「動いて試す」ことが保証されています。



ここがポイント！

- ・技術を教師から一方的に教え込むのではなく、子供が気付いたり、見付けたり、考えたり、試したりできるような場を工夫することが大切です。

- 基本的な跳び方を理解したAさん(黄2)は、自分がチャレンジしたい用具(ミニハードル、フラフープ、ミニハードル)としてミニハードルとして選び、まずはチャレンジしてみます。分かっていたのに、できると思っていたのに、できない事実に出会います。



- そこで、Aさんはフラフープの場に移り、高さのない状況でリズムよく跳び続けることができるかを確認めます。ある程度の手応えがつかめると、再びミニハードルの場に戻り、再チャレンジ。2つの場を何度も行き来しながら、「ミニハードルの場でリズムカルに跳びたい」という、最初にもった願いに向かって追究し続けます。



ミニハードルでは引っかかる



フラフープに戻り「リズムよく」を確認



ミニハードルで再チャレンジ

- 振り返りでAさんは、ミニハードルを○で囲み、できたうれしさを実感していました。



ここがポイント!

- ・「ミニハードルの場でできるようになりたい」などといった願いをもてるようにすることが大切です。
- ・自分の力に合わせて場を選んだり、繰り返しチャレンジしたりしながら課題解決に向かって運動に浸りこむことができるようにすることが大切です。

まとめ

- ・自分にとっての難しさ(課題)が高さであることを、実際に跳ぶことでつかんだAさん。その後、高さのないフラフープへと場を変えて跳べるかを確認、手応えがつかむとミニハードルの場で練習し、課題解決に向かっていました。このような姿は、体育科で大切にしたい資質・能力である「練習の仕方を工夫し、試行錯誤しながら課題解決する」ことにつながります。